



平成24年度～ 国立大学改革強化推進事業

国立獣医系4大学群による欧米水準の
獣医学教育実施に向けた連携体制の構築
＜進捗状況報告（27.2.12）＞

[帯広畜産大学・北海道大学・山口大学・鹿児島大学]

平成27年2月12日 文部科学省説明資料

「国立4大学による」 日本の獣医学教育改革

亜熱帯・温帯地域
教育拠点

寒冷地域
教育拠点

共同獣医学部

共同獣医学課程

他の獣医大学

情報発信

山口大学

伴侶動物臨床・
公衆衛生分野
強化

北海道大学

伴侶動物臨床・
ライフサイエンス
分野強化

連携強化
機能分化

連携強化
機能分化

4大学連携

- 欧米認証評価
- アドバンスト教育
- 教育コンテンツの共有
- 地域特性を踏まえた実習プログラムの構築
- 実地実習拠点の構築

鹿児島大学

産業動物臨床・
家畜衛生分野
強化

帯広畜産大学

産業動物臨床・
公衆衛生分野強化

- 欧米評価組織の調査
- 認証情報の精査・解析
- 認証情報の配信
- 欧米教員の招聘

国際認証推進室
(帯広畜産大学に設置)

欧米認証を確実に取得するためのアプローチ

防疫需要

- 人獣共通感染症(鳥インフルエンザ等)や動物疾病(口蹄疫等)の拡大
- 新興/再興感染症の出現(エボラ出血熱等)

獣医療の高度化

- 小動物医療の先端化・細分化
- 大動物の予防医療の高度化

国際獣疫事務局 (OIE)

- 動物由来の感染症制御
- 家畜防疫や衛生検査の獣医公衆衛生強化
- 動物の適正管理と福祉
- 上記の教育カリキュラムを提示

国際水準化

- 獣医学教育の国際水準化は欧米豪が先導(中国・韓国も進行中)
- **日本は取り残されつつある**

輸入検疫

- 食品の輸出入の拡大など防疫重要(BSE・残留農薬・食中毒・遺伝子組換え食品等)の増大

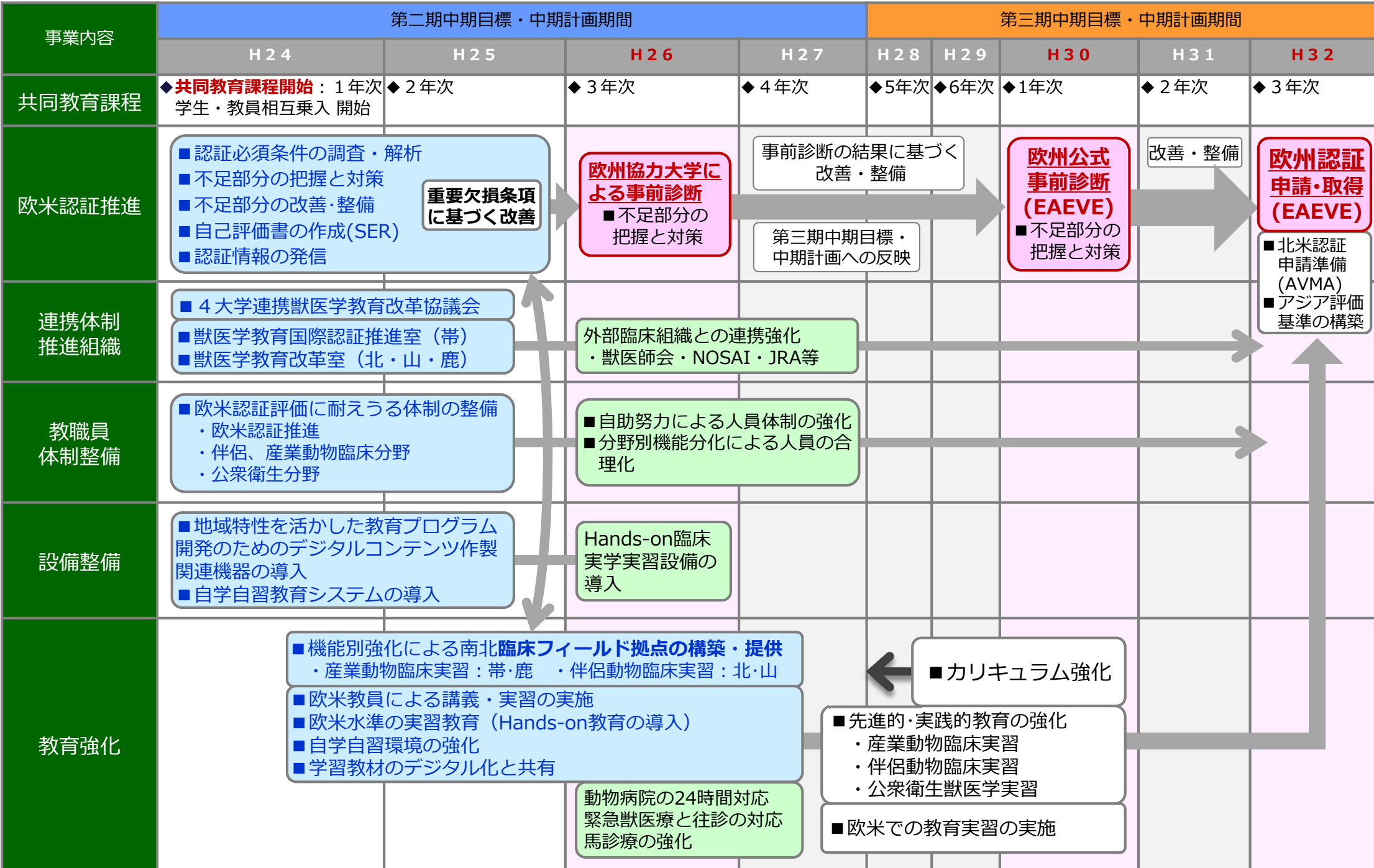
■ 欧米認証手順

平成24-25年 [1期生入学]	1. 欧米認証の必須条件の調査と自己評価：不足部分の把握と対策検討
	2. 欧米認証の申請に現時点で不足している教育基盤の整備：施設・設備
平成26年	欧米認証を持つ協力大学による事前診断 ：不足部分の把握と対策検討
平成27-29年 [1期生卒業]	欧米認証を持つ協力大学による事前診断で不足が指摘された部分の[改善・整備] 欧米認証を持つ協力大学による再事前診断 ：改善部分の確認と対策検討
平成30年	欧州認証機関（EAEVE）による訪問診断 ：不足部分の把握と対策検討
平成30-31年	欧州認証機関（EAEVE）による訪問診断で不足が指摘された部分の[改善・整備]
平成32年	欧州認証機関（EAEVE）への認証申請：認証試験 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指摘された不足について、改善・整備を繰り返し行い、EAEVE認証獲得を目指す ・ 将来的には、北米認証（AVMA認証）獲得も視野に入れて、さらなる充実を目指す

■ 評価項目

1. 設立理念	6. 施設・設備	11. 生涯教育
2. 組織体制	7. 臨床教育に供する動物種とその数	12. 卒後教育
3. 財政状況	8. 図書館・自学自習教材	13. 研究環境と研究成果
4. カリキュラム	9. 入学試験・応募状況	
5. 教育方法	10. 教員数・サポートスタッフ数	

事業進捗状況・工程



H26欧州協力大学 による事前診断

ハンガリー・聖イシュトバーン大学

フォドール教授 [EAEVE前会長]

- ・帯畜大：10/20～
- ・北大：10/23～



ドイツ・ミュンヘン大学

ブラウン教授 [EAEVE副会長]

- ・帯畜大：11/4～
- ・北大：11/7～



診断概要

評価された主な項目

- 附属牧場の産業動物実習（帯畜大）
- 学内と畜場＆乳肉加工実習（帯畜大）
- 動物病院の伴侶動物実習（北大）
- 実験動物施設（北大）
- 認証取得後は日本の共同教育課程制度を欧州(EAEVE)で活用

改善を求められた主な項目

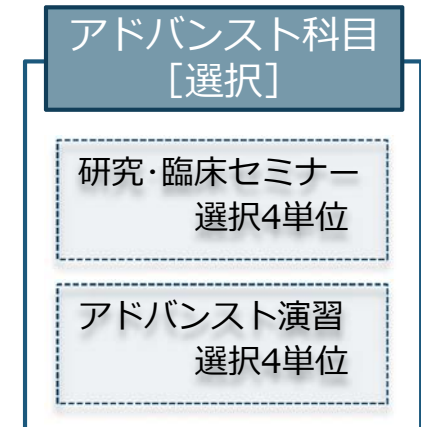
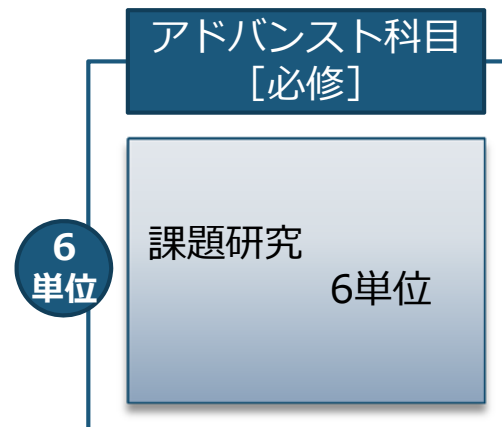
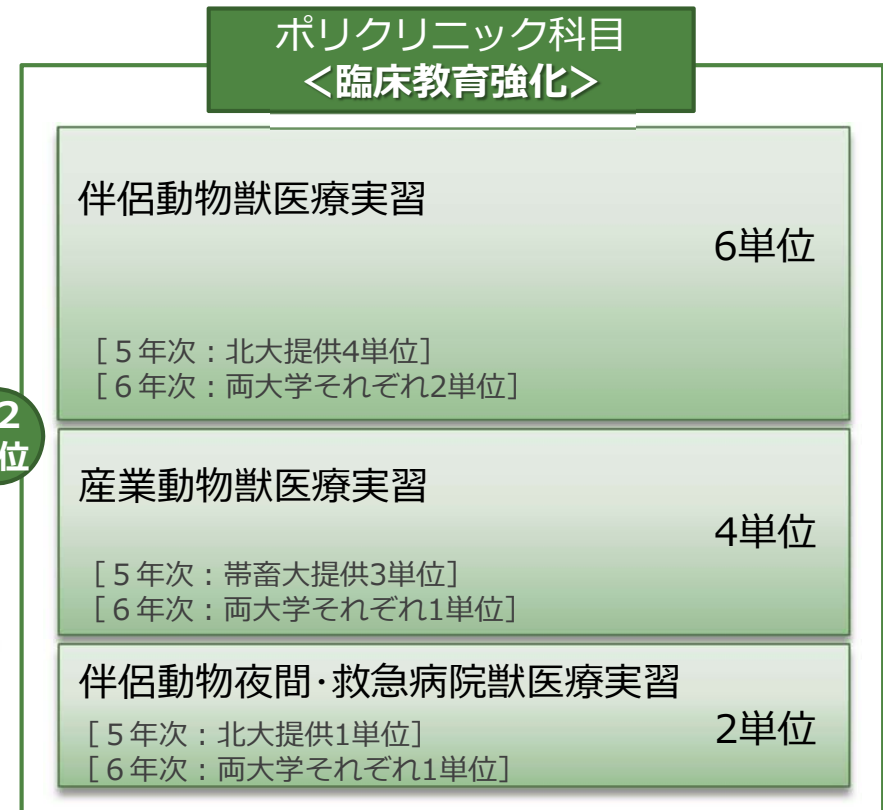
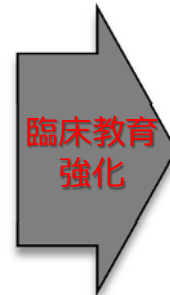
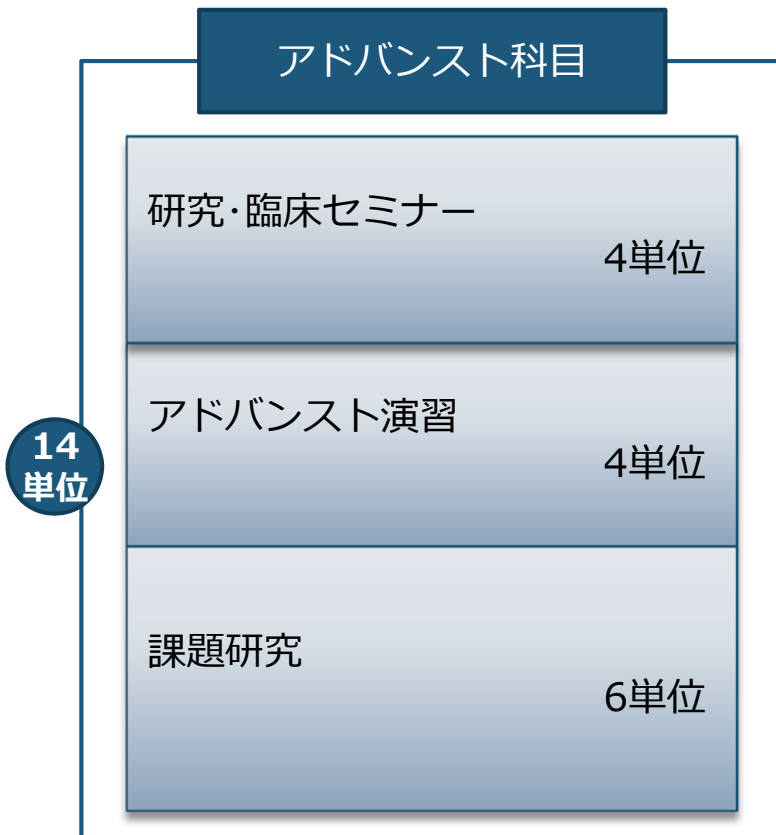
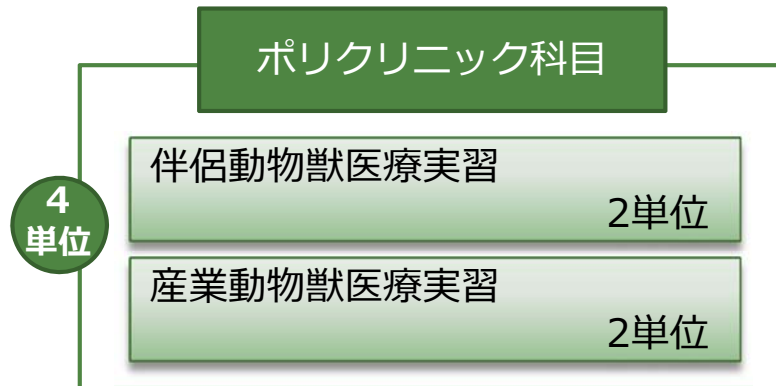
- 外部団体（獣医師会）との連携
- 動物病院臨床実習の時間数
- 夜間・救急診療実習
- 学外臨床実習
- 学外公衆衛生実習
- 産業動物(馬・豚・鶏)の臨床数
- 伴侶動物(イヌ・ネコ)の病理解剖数
- 動物愛護・動物倫理教育の強化
- 教育改善への学生参加

改善案



- 外部団体（獣医師会、NOSAI など）との協力体制強化
- 開業獣医師との連携強化
- 病院実習時間の大幅増
- 夜間・救急診療実習の新設
- 学外臨床実習の新設
- 学外公衆衛生実習の新設
- 附属牧場（馬・豚・鶏）の拡充
- 外部の牧場（馬）との協力体制強化
- 学生組織の新設
- カリキュラムの見直し・強化

平成28年度の共同獣医課程5年生より適用



H26欧州協力大学による事前診断

フランス・Alfort獣医大学

Marc Gogny 学長 [EAEVE CIQA 元委員, 認証評価委員長経験者]

フランス・VetAgro Sup (Lyon獣医大学)

Stéphane Martinot 学長 [EAEVE ExCom 現委員, 認証評価委員経験者]

チェコ・Brno獣医科薬科大学

Petr Horin 教授 [EAEVE CIQA 現委員, 認証評価委員長経験者]

- ・ 鹿大：10/14～17
- ・ 山大：10/20～21



診断概要

評価された主な項目

- 学習課程における学部学生の積極的な関与・参加
- 高レベルの基礎獣医学教育
- 共同獣医学部の設立（戦略計画）と新カリキュラムの実施
- 畜産業の極めて盛んな地域性と周辺施設/組織との連携関係（鹿大）
- 附属病院の小動物施設・設備（山大）

改善を求められた主な項目

- 農学・畜産学系科目
- 参加型臨床実習（小動物、牛、馬、豚、家禽の全て）
- バイオセキュリティの管理体制
 - ・ 小動物病院/病理・解剖実習室（鹿大）
 - ・ 小動物（鹿大）および大動物（山大）隔離施設
- 1次診療（山口），夜間・救急診療
- 実地（Hands-on）実習（特に食品衛生分野）
- 伴侶動物（犬、猫）の病理解剖数
- 大動物（馬、牛、豚）や家禽の症例数と剖検数（山大）

改善案



- カリキュラムの見直し・強化
 - ・ 農学・畜産学系科目の強化
 - ・ 参加型臨床実習の大幅増
 - ・ 牧場実習の拡充
- 近代的なバイオセキュリティ管理体制に準拠した施設の新設
 - ・ 小動物病院の新築（鹿大）
 - ・ 大動物病院（山大）/病理・解剖実習室の改築
- 1次診療（山大），夜間・救急診療体制の新設
- Hands-on実習の拡充（特に食品衛生分野）
- 病理解剖数/臨床症例数の増加

平成27年度以降適用

